

# 事業実績報告書

## 【委託団体】

特定非営利活動法人 大分環境カウンセラー協会

## 【事業の目的】

乙津川塩湿地には絶滅危惧種のシバナ、ハマサジ、ハママツナ、フクド、イソホウキギ、ハマボウなどが生育している。

1. 乙津川塩湿地の植生調査、現存植生図の作成を行い、絶滅危惧種の保護・再生に必要な基礎資料を提供する。
2. 「乙津川塩湿地の現存植生図と解説書」を地域の小・中・高校や公民館へ配布。説明会を催して、絶滅危惧種の保護・保全活動へ参加するよう啓発する。
3. 乙津川の自然観察会などを通して郷土愛を育み、河川敷の清掃活動や自然保護活動の実践など持続可能な地域作りに貢献する人材を育てる。

## 【事業の概要】

1. 乙津川塩湿地の35箇所において、夏期と冬期に植生調査を行う。
2. 絶滅危惧種の生育場所を記した5千分の1現存植生図(A3カラー300枚)を作成。教材に利用できるように解説書を付して、地域の小・中・高校へ配布、説明会を催して絶滅危惧種の保護・保全活動への協力を呼びかける。
3. 塩湿地の絶滅危惧種は漂流物が堆積する汀線付近に育成している。地域住民や小・中・高校生に呼びかけて清掃を行い、絶滅危惧種の保護・保全を行う。
4. 絶滅危惧種のハマボウ、砂州に生育するハマナデシコ、ハマゴウの種子を、地元の小学校の児童と採取、育苗して乙津川河川敷へ移植、自然植生の再生を図る。

## 【事業日程】

事業名	月	事業日程	事業の内容
乙津川塩湿地の「絶滅危惧種保護活動事業」	9月	4日、5日、7日 国土交通省大分河川国道事務所、鶴崎地域の小・中・高校、公民館、市役所、企業の訪問	○事業の説明と協力依頼 須股（20箇所） 事業計画書A4・3枚
乙津川塩湿地の植生調査		11日、18日、19日、22日、25日、28日 ○海原橋上流右岸A帯状調査区、P.S調査区 ○三ツ川地区左岸中州10m×100m帯状調査 計25箇所の植生調査	○永久植生調査区の杭打ちと植生調査 須股、工藤、高橋（延べ人数17人）

乙津川塩湿地絶滅危惧種保護の啓蒙活動	10月	<p>10日、13日、22日</p> <p>○別保橋下流左岸 10m×400mの帯状調査区の植生調査</p> <p>○20日 鶴崎地区教育懇談会・鶴崎公民館において「郷土愛を育む環境教育」パワーポイント49枚使用</p> <p>○11日 大分市別保小学校で乙津川の講話</p> <p>○26日 卒業記念に育てたハマボウの苗を乙津川水辺の楽校に移植</p>	<p>○植生調査 (5m×5m・40箇所) 須股、工藤、荒巻、高橋 (延べ人数14人)</p> <p>清掃活動チラシ作成</p> <p>○環境教育の理念と方法及び乙津川の絶滅危惧種の保護について協力を呼びかける (須股・200人参加)</p> <p>○乙津川の自然はふる里の宝 (須股・児童100人)</p> <p>○乙津川で採取したハマボウ、ハマナデシコの種子を育苗、ヒガンバナ、スイセンの球根などと移植、指導 (須股・児童100人)</p>
乙津川塩湿地現存植生図の図示作業	11月	<p>4日、21日、28日、30日</p> <p>○植生調査と植生図示、フロラ調査</p> <p>○塩分濃度測定用パイプ9本埋設</p>	<p>○植生図示、植生調査、フロラ調査、塩分調査</p> <p>須股、瀬口、工藤、荒巻、田中、高橋 (延べ調査者15人)</p>
乙津川塩湿地・絶滅危惧種保護の啓蒙活動と生育地のゴミ除去作業	12月	<p>3、4、5、8、15、16、17、21、22、23、27日</p> <p>○海原地区自治会、地元企業、学校、国土交通省大野川出張所、地元公民館へ清掃協力の依頼と清掃活動</p> <p>○16日 大分大学にて、日本動・植・生態三学会で「乙津川塩湿地の絶滅危惧種」の講演と清掃活動協力依頼</p>	<p>○絶滅危惧種を守るためのゴミ除去作業のチラシ配布と協力依頼</p> <p>須股 (8箇所)</p> <p>8日 第1回清掃活動 (20名参加)</p> <p>22日 第2回清掃活動 (140名参加)</p> <p>45ℓ ゴミ袋150袋・1トンを拾う</p> <p>23、27日 お礼廻りと後援事業の報告書提出</p>
植生図作成作業と塩分濃度測定	1月	<p>4、5、6、7、10、11、15、16、17日</p> <p>○植生図作成作業、塩分濃度測定</p> <p>○現地で植生図修正作業</p> <p>○26日 つるさき環境フォーラムで基調講演「乙津川に生育する絶滅危惧種」鶴崎市民行政センターにて</p>	<p>○塩分濃度測定と植生補充調査</p> <p>○植生図作成作業と現地確認作業</p> <p>須股、田中 (延べ8名)</p> <p>○つるさき環境フォーラムで乙津川絶滅危惧種の保護の重要性を講演</p> <p>須股 (参加者200名)</p> <p>25日パワーポイント作成 (写真30枚)</p>

<p>○植生図原画完成、印刷、校正、現地で修正</p> <p>○植生図解説原稿執筆、印刷渡し</p> <p>○絶滅危惧種保護活動の啓蒙</p> <p>○報告書の作成、提出</p>	<p>2月</p>	<p>2、3、4、5、7、20、22、23、28日</p> <p>○植生調査の結果と写真のまとめ</p> <p>○植生図の解説書の執筆</p> <p>○報告書の作成</p> <p>○9日 当協会主催の「環境大学」で活動成果報告</p> <p>○23日 自然公園指導員・希少野生動植物保護推進新研修会での報告</p>	<p>○植生図の校正</p> <p>○報告書の執筆と写真の整理</p> <p>○会計整理</p> <p>○環境大学で「乙津川の絶滅危惧種の調査成果報告」（参加者200名）</p> <p>○報告会（参加者約100名）</p>
---	-----------	---	---



清掃活動



植生調査

【効果】

1. 乙津川塩湿地の植生図作成、絶滅危惧種のモニタリングを続けながら、研究の後継者を育てる。後継者はこの植生図を活用することで、絶滅危惧種の衰滅、生育環境の変化をいち早く察知し、保護・保全対策を講じることができる。
2. 「乙津川塩湿地の現存植生図と解説書」を「つるさき環境フォーラム」で解説し、地域の小・中・高校や公民館に展示する。絶滅危惧種への理解が深まり、保護・保全活動につながる。
3. 地域住民の乙津川への関心が高まることによって、乙津川へ流入する家庭排水に配慮するようになり、水質汚染防止へ発展する。
4. 絶滅危惧種の保護活動、生育地の清掃活動を通して、小・中高校生の郷土愛が育まれ、自然を生かした街づくりへ発展する。